

羊角湾の干潟は貴重な生き物の宝庫だった！！

佐藤正典先生(鹿児島大学理学部教授・専門は底生生物学)と歩いた路木川の河口干潟より

残暑も厳しい9月11日(日)約30名の参加者で路木川の河口・羊角湾の干潟調査を行いました。当日は親子連れなどで和気あいあいの雰囲気の中調査は開始。始めに佐藤先生からの干潟の持つ役割や重要性の解説があり、先生は「ゴカイや貝類・エビの調査をしている立場にとっても羊角湾はものすごく貴重な場所である。昔はたくさん生き物がいた場所。希少な生き物もいるはずだ」とスタート。カマヤスコップで砂を掘り返し、潜り込んでいるものや石の下にいるものなど、それぞれいろいろな生き物を見つけ「さてこれはどんな生き物かな」と先生に話を聞きました。

一珍しい貝を発見！一 絶滅危惧種や希少種が見つかる！

シオヤガイ(希少種で生きているものはなかなか見つからないが生きている!)
イオウハマグリ(絶滅危惧種・魚屋に売っているのはシナハマグリで外来で別種)
イチョウシラトリ貝(絶滅危惧種、諫早湾にたくさんいたが埋め立てでいなくなった。ここに生きていたのか!)

一改めて羊角湾の干潟を絶賛一

ゴカイは少なかったのですが、貝の希少種の発見に先生も感激されていました。二枚貝・カニ・エビ等の不思議な生態と未知の世界を知ることができ、ゴカイなりきったというべきか、研究者の佐藤先生の知見の深さに感嘆するばかりでした。同時に羊角湾は希少生物がまだまだ健在で豊富であることを知ることができ、改めて残すべき大切な干潟であると実感しました。干潟にいる二枚貝などの生き物は植物プランクトンを餌として食べるので、その浄化能力はすごく、干潟の泥をいれ米のとぎ汁で実験すると数時間で透明になり驚きます。

一豊かな海は・森・川・干潟へ～羊角湾にはすべてがある一

羊角湾は全国でも稀なる豊かな海です。照葉樹林にかこまれた路木川からきれいな水が流れ込み、そして豊かな干潟があるからです。養分をたっぷり含んだ水は干潟の生き物の餌になります。干潟は海を浄化する大切な場所です。

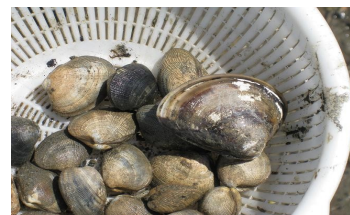
その干潟の中で大きな働きをする底生生物たち。川から来る栄養分をたっぷり含んだ水がなくなったらどうなるのでしょうか。ゴカイや海藻や魚が育っていくのでしょうか。森・川・海が豊かであればこそ漁業は成り立っていきます。海は川に支えられることをもう一度考え直してみたいものです。ダムを作ることによって川の流れを止め、生態系が変わってしまいます。ひとつ壊れると全てのサイクルが壊れてしまいます。

一佐藤先生のコメント一

この路木川河口の干潟は、まさに「希少種の宝庫」だということである。ここには、日本の内湾奥部を代表する種がたいへんよくそろっている。比較的狭い範囲にこれほど多くの希少種がそろって見つかる場所は、今の日本にはほとんどないと思われ、誠に貴重な所である。

日本の多くの内湾では、これまでの開発によって、とりわけその湾奥部において、多くの干潟が失われ、その結果として、内湾奥部に特徴的な多くの種は、各地で生息場所を奪われ、絶滅の危機にひんしている。これらの絶滅危惧種の多くが羊角湾の奥部に生き残っているのである。たとえば、オキヒラシノミ、ヒメアカガイ、ビョウブガイなどのきわめて希少性の高い貝類も含まれている。またオキナワヤワラガニ(カニ類の一種)のように、沖縄を除いて日本ではここでしか見つからない種もいる。従って、路木川河口周辺の干潟の保全は、羊角湾全体の環境を保全し、そこで営まれている漁業、養殖業などの地域産業を守るために重要である。

この干潟に流入する路木川の上流では、今、ダムの建設が計画されており、すでに工事が始まっている。もしダムが予定通り建設されたならば、河口部の干潟生態系も大きな影響を受けるだろう。干潟の基礎を作る砂泥は、波浪による流出と河川からの供給によるバランス(動的平衡)によって維持されている。ダムは川が運ぶ砂をせきとめてしまうので、干潟への砂の供給が減少し、干潟が縮小するとともに、泥と砂の構成比が変化し、現在の干潟生物相が大きな悪影響を受ける可能性がある。また、ダムの取水によって河口の干潟に流入する淡水が減少する影響も大きいと思われる。また、ダムによって水がせき止められ淀んだダム湖ができることにより、下流に流下する水質は著しく悪化するだろう。(佐藤正典)



ハマグリ アサリ イオウハマグリ シオヤガイ
イチョウシラトリ



佐藤先生を囲んで熱心に説明を聞く参加者